

Newsletter Vol.3

2021.3.1



SAPOSEN
ふくしま地域活動団体サポートセンター

CONTENTS

- P2-3 Pick up NPO ・ひめさゆりくらぶ
・環境ワーキンググループ伊達
- P4-5 10回目の3.11を迎えて、今思うこと
令和2年度 NPOと企業等のマッチング事業
P6 県内各所でマッチング会を開催
ふるさと・きずな事業 成果報告交流会 開催案内
P7 オンラインを活用しよう!〜ワークショップ:準備編〜
P8 NPOニュース
助成金情報

令和2年度NPO強化による復興創生事業

NPO × 若者
= 復興!!

チャレンジインターンシップ 活動報告会・閉講式開催

事務局レポート

12月19日(土)、福島市市民活動サポートセンターにおいてチャレンジインターンシップ活動報告会・閉講式を開催しました。

今年度は、感染症対策をとしての開催となり、会場での参加とオンライン参加を交えて、事業に参加した学生たちがそれぞれ活動の成果を発表しました。

インターン生より、①どんな活動をしたか、②学んだこと・得たもの・気づいたこと、③活動で得たものを今後どのように活かすのか、の3点について発表後、受入団体の方からコメントをいただきさらに参加者から質問や感想を話してもらうことで、活動について深く振り返る時間となりました。

発表では、「人と人とのつながりの大切さを学んだ」、「先行きを考えて行動することができるようになった」、「活動を通して視野や考え方が広がった」などの感想があり、今回のインターン活動が自分の将来や生き方を見つめるきっかけとなったのではないのでしょうか。

この活動で抱いた一人ひとりの想いが未来の福島を創っていくことを期待しています。



活動レポートはこちらから

URL

<https://f-intern.f-saposen.jp/topics/report/>



活動の様子を紹介した動画は こちらから

URL

<https://drive.google.com/file/d/1S4bpWt5h5dL1qrBpu-ErUetGMQKDD4uT/view?usp=sharing>





特定非営利活動法人 喜多方市 ひめさゆりくらぶ

スポーツを通して地域交流！

特定非営利活動法人ひめさゆりくらぶは、平成18年にうつくしま広域スポーツセンターより総合型スポーツクラブの設立の認を受け2年の準備期間を経て設立され平成26年にNPO法人となった、子どもから高齢者までの誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツやレクリエーションに取り組める機会を提供する団体です。

主な活動はスポーツレクリエーションイベントの開催や小学生向けのスポーツ少年団の運営、フットサル・家庭バレーボール・グラウンドゴルフ教室の運営を行っています。中でもスポーツ少年団と聞くと、何か一つの競技に専念していると思ってしまうのですが、ひめさゆりくらぶの少年団は、夏場は陸上競技やバレーボール・卓球、冬場はスキーなど、種類を絞ることなく様々なジャンルのスポーツを行っています。一つの種目にこだわらずいろいろなスポーツを経験することで、その中から自分の本当にやりたいスポーツを見つけ、次へ進んでいくための足掛かりになるようにとの思いから、こういった少年団を作られたそうです。活動の日には、年間カレンダーや活動のチラシを作成し、SNSを通じて広報されています。ご興味のある方は、是非検索してみてください。



少年団では合宿も行っています！

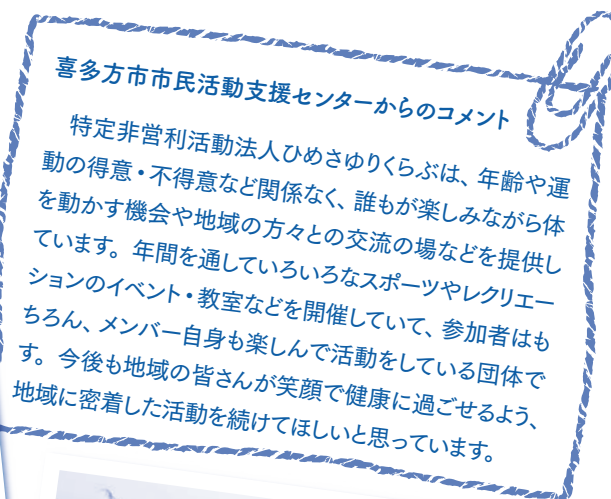
活動を続ける中で、最初はなかなか参加者が集まらず、苦労したこともあったそうです。「いまは同じ方向を向いて楽しんで活動できるメンバーに会えたことが一番嬉しい。大変なこともあるけれど、これからも参加者とともに自分たち自身も楽しめる活動を一步一步地道に続け、地域に貢献できるクラブでありたい。今後は、子どもから大人まで体組成※1の測定や、食生活のアドバイスなども行い、地域のスポーツ活動や介護予防の推進に本格的に取り組めるようになることが夢です。」と事務局の平林さんは仰います。

ひめさゆりくらぶへの参加は、喜多方市民に限らずどなたでもご参加いただけます。また、事務局や各教室のスタッフ等のボランティア仲間も募集しています。皆さんも是非、スポーツを通して地域交流をしてみませんか？

※1 筋肉・脂肪・骨・水分など、からだを構成する組成成分。



様々なスポーツを体験できます！



グラウンドゴルフの様子



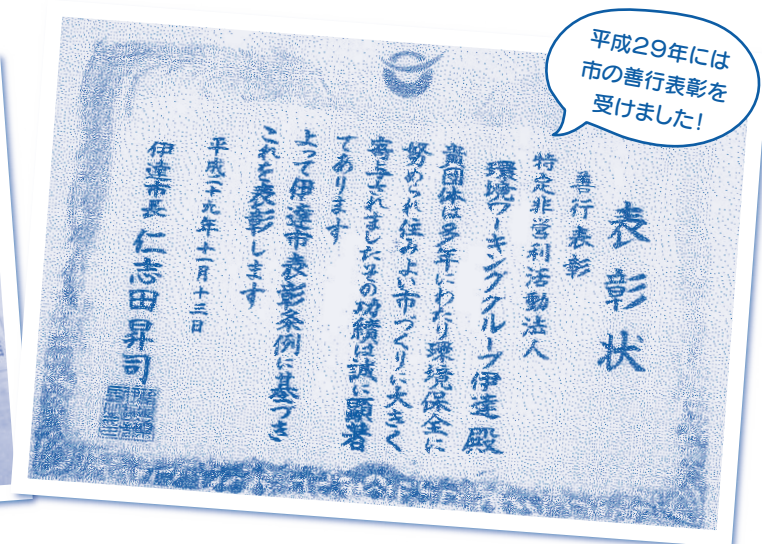
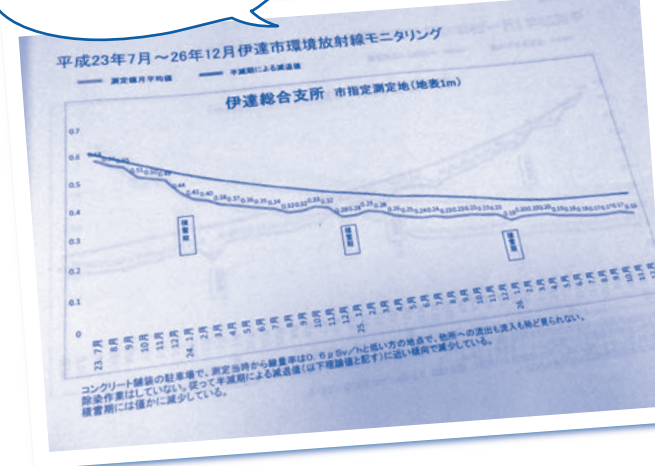
特定非営利活動法人 伊達市 環境ワーキンググループ伊達

日本の未来につながる活動を！



雨の中での放射線測量

放射線モニタリング結果



平成29年には市の善行表彰を受けました！

特定非営利活動法人環境ワーキンググループ伊達は、任意団体として誕生し、平成24年にNPO法人となった団体です。活動のきっかけは、現在の活動地域である伊達市保原町で昭和40年代に古川下流のリング園で「黒リング」※1が大きな話題となったことでした。

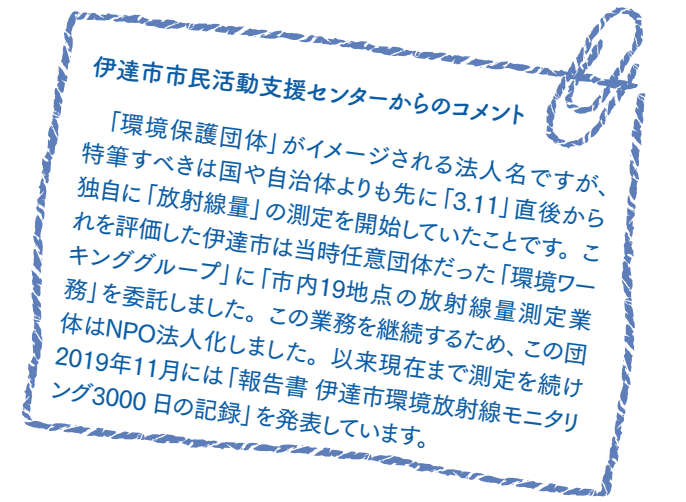
当時、県立保原高校の教師として化学クラブの顧問をしていた代表の菅野幸雄さんは、クラブ員と共に何故黒リングができるのかを調べました。結果、リングの木自体が病気にかかっているのではなく、近所の工場から出る排水が川で混ざり合い発生した硫化水素ガスと、散布する農薬の成分が混じり合ったことが原因とわかりました。排水が流れ出る古川は川底が平らで流れがゆるやかだったため、排水が流れず攪拌し硫化水素を発生させていました。当時は工場から流れ出る液体などに対する規制もなく、川が汚れる一方で、かつてここで生息していた蛸も姿を消していました。菅野さんは、水質を戻すことで作物への被害をなくし、希少動植物をもう一度もとの生態に戻そうと、環境を保全する活動を志したそうです。

こうした活動を行ってきた中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う原子力災害によりグループの活動は一切中止せざるを得なくなりました。目に見えない放射線に恐怖を抱く地域住民のためにできることはないかと考え、同年3月末より市内の主な地点を自主的に測定した

り、住民の方々に放射線の基礎知識を話すなどの啓蒙活動を行いました。この活動が評価され、7月には市より業務委託を受け市内19地点を毎日測定し、今年で10年になります。長期間の測定により、放射線量はいずれの地点でも理論値よりも早く減衰していることが判明し、除染作業は有用であることを証明しました。

環境ワーキンググループ伊達は、これからもメンバー全員が自分たちの活動に誇りをもち、継続に努めていきます。

※1 リングの表面に煤がついたように黒変する現象



伊達市市民活動支援センターからのコメント

「環境保護団体」がイメージされる法人名ですが、特筆すべきは国や自治体よりも先に「3.11」直後から独自に「放射線量」の測定を開始していたことです。キンググループに「市内19地点の放射線量測定業務」を委託しました。この業務を継続するため、この団体はNPO法人化しました。以来現在まで測定を続け2019年11月には「報告書 伊達市環境放射線モニタリング3000日の記録」を発表しています。



10回目の3.11を迎えて、今想うこと

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から10年が経過しようとしています。これまで、福島の復興のために多くの支援者による取り組みが行われてきました。今回はこうした“復興の担い手”に、これまでの取り組みの振り返りとこれからの復興について想うことをお聞きました。

特定非営利活動法人 富岡町3.11を語る会

Q1 私たちは、福島の複合災害を語り伝えることを通して、被災の現状と復興への課題を一緒に考える人を増やし、人の繋がりによって「町」を創り、人の力によって「復興」を実現する「語り人活動」を行ってきました。課題意識を共有し一緒に行動する人を増やすということは、一朝一夕にはできない、時間もかかり数値には表れにくいことでした。焦らず、結果をすぐには求めずに進むことの難しさを、今も感じています。

Q2 これからも人を育てることやその「場」づくりに取り組んでいきたいと思います。災害に遭ったものだけが知る「喪失感」「孤立感」を多くの人が共有できる「知恵」に変えていくことによって、福島が防災、放射能、介護、コミュニティ形成などの「学びの場」となるような拠点になってほしいと願っています。



特定非営利活動法人 野馬土

Q1 放射能測定や原発20km圏内ツアーを通じ被災地のリアルを伝える活動と、地域のコミュニティ形成や農食育のイベント等、「農業」を通したまちの未来につながる取り組みを継続してまいりました。風評も風化も地域の課題もまずは現実を知ってもらうことが大切であり、実際に体験を経る中での共感と関心の高まりを実感しています。

Q2 地球環境や社会問題の解決は世界的にも重要課題とされる中、奇しくもコロナ禍で人々の行動が結果に直結する事実が明白となりました。福島の経験と再帰への挑戦が持続可能な社会に向けた教訓として活かされることを願い、「よりよい未来をつくる」種まきとる発信と地道な草の根活動を続けてまいりたいと思います。

Q1「震災後の取り組みを振り返って」 Q2「これからの福島の復興への想い」

NPO法人中之作プロジェクト

Q1 港町の風景保存を目指すNPO法人です。津波被害で解体が決まっていた古民家を再生することから活動が始まりました。地域を調べると、震災前から続く少子高齢化・過疎化などの地域課題による空き家問題を避けて通れないことが分かり、最近では地域を巻き込んだ空き家再生事業がNPO活動の主軸となっています。

Q2 小さな港町の風景は何の価値もないように見えますが、比較的津波被害が少なかった中之作地区には海辺の暮らしを伝える貴重な建物が数多く眠っています。単に建物を保存するのではなく、魚料理や漁具、お祭りなど港町ならではの文化や伝統を受け継ぐ仕組みづくりが復興につながる取り組みだと考えます。

特定非営利活動法人 ふくしま飛行協会

Q1 「南三陸まで物資輸送や医療関係者を輸送する中継拠点にできないか」との、東京の知人から電話があった。ふくしま飛行協会は赤十字飛行隊福島支隊を結成していたので協力することで施設使用が始まった。その実績で、現在では県警航空隊・県防災航空隊・自衛隊福島駐屯地の緊急時の使用協定が結ばれ、市民の安全を確保する施設になっている。

Q2 ここに本格的な放射能汚染物の仮置き場を設置したいと福島市より協力の依頼があった。これを了承できたのは、震災の年の9月、清水修二先生を団長とするチェルノブイリ原発視察団に参加し、放射能の生活への影響を理解していたからだ。この施設には多くの見学者が訪れ、市中に次々と仮置き場が建設された。一日でも早く安心して住める福島に協力をしたい。

これからの姿

2011.3.11から今年で10年目を迎えることになりました。今も私は福島県中通りで生活しています。震災を経験し学んだことが二つありました。

一つ目は、人の繋がりや強さです。

当時中学生だった自分には故郷を離れることしかできませんでした。そして、支援を受けなければ生活できずにいることや、避難所で生活することに後ろ指をさされているような負い目と、「被災者」というレッテルを貼られ拒否されるのではないかと恐怖心を抱いていた自分がいました。しかし、そんな自分を温かく迎え入れていただいた中通りの方々には感謝しています。今の自分があるのは皆さんのおかげだと実感しています。

二つ目は、人の想いです。

帰宅困難区域とされていた土地に戻ることができると聞いた時には驚きました。一生戻れないと言われていた土地に再び住めるのは時間の経過だけではなく、今も人生をかけて故郷を復興活動されている方々の想いをつないだ形が実現したものだと知りました。私は「地震の影響だからしょうがない」と言い聞かせながら活動していくことに抵抗感がありました。自分の目に映ってくるのは取り壊され更地と還っていく街の景色であり、ぽっかりと心に穴が開くようなつらさを感じ続けていました。しかし、景色と風景が移り変わるには十分な月日が流れてもなお、一歩ずつ諦めずに歩んできている方々の話を聞くうちに、人の想いや心の強さに惹かれました。私は同時に土地の思い出に対して色を付けていくのもまた人の力があってこそだと思いました。

私はこれらの体験から、当たり前になることで日常を送ることができるようなまちづくりをしていきたいです。「経験がその役に立てばよい。」と、現在、NPO活動をしています。閑散とした小さな町に再び笑顔あふれるようになってほしい。その為に今自分ができることは何かを考え続けていきたいです。

元双葉町民 現ふくしまNPOネットワークセンター職員 井上 大生

震災10年を振り返る

活動の主役を子どもたちが行うことで、被災者の方は心配してあげる側に変化します。一緒に寄り添い、お話をし、子どもたちとダンスで交流を図ると自然に笑顔が溢れます。そんな「心の行き場」を作る活動を、ストレッチ運動や座談会、盆踊り体験などを通して、現在も続けています。今後は子どもたちの育成にも力を注ぎたいです。

特定非営利活動法人ダンス博
代表 神永 幸良



震災と原発事故により、福島は多くのものを失いました。10年が経過した今でも被災地では地域課題が山積し、先の見えない日々が続いています。しかし、この10年間で新たな出会いがあったり、さまざまな試みを展開するなど、得たものも少なくないといった意見もよく聞かれます。長期化する福島の復興が少しずつでも前に進むために、これまでの経験がこれからの取り組みに活かされるように、私たちサポセンも努力していきたいと思っています。



令和2年度 NPOと企業等のマッチング事業 県内各所でマッチング会を開催



本年度のマッチング事業は、オンラインミーティングをはじめ、会場に集まる際はマスクの着用、検温、アルコール消毒、定期的な空気の入替え、飛沫防止板の設置、ソーシャルディスタンスの確保など、徹底した新型コロナウイルス感染対策をとりながらの開催となりました。

昨年12月1日より、郡山市を皮切りに県内4カ所でNPOが企業と直接面談をするマッチング会を行い、NPOのべ24団体、企業のべ23社と、昨年度以上に多くの団体や企業に参加いただきました。マッチング会当日は「NPOと企業等のマッチング・福島県内の多様な社会課題の解決」と題して講師の遠藤智栄氏にレクチャーをお願いした後、各NPOが7分間のプレゼンを経て企業との個別マッチングを行いました。どの会場でも時間が足りないほど企業との話が盛り上がり、中にはすでに協働事業の話が聞こえてくるなど今後の展開が楽しみです。

NPOと企業、それぞれの立場や考え方は違いますが、その違いにこそ地域課題を解決するヒントがあると思います。もう一度、団体設立の経緯や、活動内容、自分たちの強みを再確認するとともに、行政や企業、学校といった「異なるセクターが協働して地域課題を解決する」という柔軟な考え方で、日頃からそういった関係性を育ててほしいと思います。

ふるさと・きずな維持・再生支援事業

成果報告交流会を開催します

「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」は、東日本大震災からの復興・風評払拭に向けNPO等が行う取り組みを支援しています。

今年度はコロナ禍で、予定していた事業の変更・中止が相次ぎましたが、そのような中でも本県の復興に取り組んだ22団体の活動成果をぜひお聞かせください。



ふるさと・きずな維持・再生支援事業 成果報告交流会

日時／令和3年3月19日(金) 13:00～14:50
開催方法／オンライン
参加／無料 どなたでも参加できます。
事前にお申し込みください。
主催／福島県
事務局／ふくしま地域活動団体サポートセンター
TEL 024-521-8206(担当：小野田)

成果を発表する予定の22団体

- 特定非営利活動法人富岡町3.11を語る会
- 特定非営利活動法人南相馬サイエンスラボ
- NPO法人中之作プロジェクト
- 学校法人山口学園ECC国際外語専門学校
- 特定非営利活動法人コースター
- 特定非営利活動法人がんばろう福島、農業者等の会
- NPO法人ふくしま30年プロジェクト
- 一般社団法人ふくしま連携復興センター
- みらいのたからばこ
- ringo company
- 一般社団法人Bridge for Fukushima
- 特定非営利活動法人SORAアニマルシェルター
- 特定非営利活動法人野馬土
- 一般財団法人飯舘までい文化事業団
- 特定非営利活動法人福島ダイアログ
- 特定非営利活動法人福島住まい・まちづくりネットワーク
- 特定非営利活動法人元気になるろう福島
- 特定非営利活動法人未来ノチカラ
- 特定非営利活動法人ふくしま再生の会
- 特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター
- 特定非営利活動法人ツークンフトロカール
- 特定非営利活動法人相馬はらがま朝市クラブ

機材

カメラ・マイク内蔵のパソコン、タブレットまたはスマートフォン

パソコンは必ずしも必要ありませんが、使用する機器や環境によって画面の表示に違いが出ます。当日、画面上で共有する資料がある場合は、ページの大きさや見え方に影響しないか確認しましょう。イヤホン(マイク付)もあると良いですが、必須ではありません。



Zoomの使い方①

参加はアプリだけでO.K.!

オンライン企画に参加するだけなら、Zoomアカウントは必要ありません。公式サイト「Zoomダウンロードセンター」から、無料アプリ「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロードします。企画主催者から事前に接続URL(例: <http://zoom.us/j/xxxxxxx>)のいった招待メールが届きますので、確認しましょう。

なるほどTips!

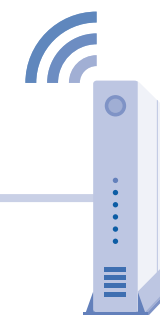
企画主催者からは、接続URLに加えて、参加ガイドや当日使用するプログラム、配布資料などが送られてくることもあります。参加ガイドには、マイク・ビデオの設定や発言のルールなど、参加者間で共有しておくべき「グランドルール」が書いてあることが多いので、必ず読みましょう。プログラムや配布資料は、当日も画面共有で見ることができますが、事前に目を通したうえで、印刷して手元に置いておくと安心です。

これで、Zoomを使ったオンライン企画に参加するための準備は完了です。基本を押さえたうえで、便利な使い方も身に付けて、様々な場面で活用していきたいですね。

静かな場所と安定したインターネット接続

環境

生活音はもとより、窓やカーテンを閉めるなどして周囲の雑音を遮りましょう。接続の安定はネットワーク回線(無線・有線LAN、Wi-Fi等)により異なります。可能であれば有線LANにしましょう。



オンラインを活用しよう!

～ワークショップ：準備編～

インターネットを通じ、相手と顔を合わせてリアルタイムで話せるビデオコミュニケーションツール。比較的使いやすいZoomを例に、活用の基本を押さえます。



Zoomの使い方②

アカウント取得すれば主催者になれます!

オンライン企画を主催するにはZoomアカウントが必要ですが、メールアドレスがあれば無料で取得できます。Zoomアプリを開いて「サインアップ」をクリック。画面の指示に従ってアカウントを作成してください。



NPOニュース

毎年、明治ホールディングス株式会社様より株主優待によるNPO団体へのお菓子の寄贈が行われています！今年度は、東日本大震災の被災地の方々および被災地から離れて生活をされている方々、また全国の障がいのある児童の支援団体など、合計244団体、内福島県からは8団体へと寄贈を実施。たくさん子どもたちを笑顔にしてくれました！

寄贈レポートはこちらから

<https://www.meiji.com/beliefs/contribution/>



助成金情報

チャレンジしてみよう！

NPO関連の助成金情報については
当センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇経済活動の活性化

令和3年度ふくしま産業応援ファンド事業助成金 【支援元／公益財団法人福島県産業振興センター技術支援部技術総務課】

- 助成対象／県内に事業所を有する中小企業者、NPO法人等または助成期間内に県内において創業するもので、新製品・新技術開発、開発に向けた調査・分析等の費用や販路開拓に要する費用の一部を助成。
- 申込期間／2021年2月15日(月)～3月31日(水)※必着
- 上限金額／各事業により異なる※詳細は下記URLをご確認ください。
- 参考URL／<http://fukushima-techno.com/post4/>

◇農山漁村・中山間地域の振興、まちづくり

第18回オーライ!ニッポン大賞募集 【支援元／オーライ!ニッポン会議(都市と農山漁村の共生・対流推進会議)】

- 助成対象／都市と農山漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図るため、日本各地で都市と農山漁村の交流を盛んにする活動に積極的に取り組んでいる団体、個人を対象。
- 申込締切／2021年3月24日(水)
- 上限金額／部門により異なる※詳細は下記URLをご確認ください。
- 参考URL／<https://www.kouryu.or.jp/information/ohrai18th.html>

◇保健・医療または福祉、災害復興

第33回NHK厚生文化事業団 地域福祉を支援する「わかば基金」 【支援元／社会福祉法人NHK厚生文化事業団】

- 助成対象／地域に根ざした福祉活動を展開し、より活動を広げたいというグループや、被災地域において福祉活動を通してその地域の復旧・復興を進めているグループなど。
- 申込期間／2021年2月1日(月)～3月30日(火)※必着(郵送のみ)
- 上限金額／部門により異なる※詳細は下記URLをご確認ください。
- 参考URL／<https://www.npwo.or.jp/wakaba>

◇人権の擁護・平和の推進、環境保全、国際協力など

大竹財団助成金 【支援元／一般財団法人大竹財団】

- 助成対象／公益・社会問題の解決に取り組む事業を行い、日本国内に事務所または連絡先を持つNPO、任意の市民団体、ボランティアグループ。
- 申込期間／通年
- 上限金額／1件あたり50万円
- 参考URL／<https://ohdake-foundation.org/index.php/grant.html>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体／918 団体

◆認定 NPO 法人団体／20 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体／1 団体 2021 年 1 月末日現在

編集後記

コロナに打ち勝つ暖かい春にしたいですね。【内山】
食欲に軍配上がる時計より箸の方が早かった(4歳女)【加藤】
鍋ダイエットに励みます【齋藤(美)】
新たな場所へ旅立られる方へ、ご活躍を祈念しています【小野田】
春生まれなので春が待ち遠しいです。【穴戸】
3月11日生まれの子。あつという間に1才です。【梅宮】
あれから10年。先は長いですが、一步一步進みましょう。【遠山】
ハハハハハ、先日笑いヨガを体験。声出し笑いで免疫UP!【齋藤(宏)】
花より団子。団子よりビール。ビールより睡眠。【伊藤】